

財務会計論

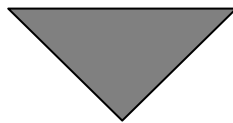
本試験

問題 15 次の〔資料〕に基づき、X1 年度（X1 年 4 月 1 日～X2 年 3 月 31 日）の借手の損益計算書に計上される所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る費用の合計金額として最も適切なものの番号を一つ選びなさい。なお、計算結果に端数が生じる場合、千円未満を四捨五入すること。（8 点）

〔資料〕

1. リース取引開始日は X1 年 4 月 1 日であり、解約不能のリース期間は 3 年である。
2. 借手の見積現金購入価額は 9,722 千円である。貸手のリース物件の現金購入価額はこれと等しいが、借手において当該価額は明らかではない。
3. リース料は年額 3,400 千円を各年度の期首に前払する。リース料総額は 10,200 千円である。
4. リース物件の経済的耐用年数は 4 年である。
5. 借手は、減価償却方法として定額法を採用する。また、耐用年数と残存価額は会計基準に定める原則的な取扱いによることとし、減価償却費の記帳方法は直接法による。
6. 借手の追加借入利率は年 4.8% である。なお、借手は貸手の計算利率を知り得ない。
7. 見積残存価額をゼロとし、リース料総額の現在価値が当該リース物件の現金購入価額と等しくなる利率は年 5.0% である。
8. 借手は、リース料総額に含まれている利息相当額を、リース期間にわたり利息法により配分している。
9. リース契約上、残価保証および割安購入選択権に関する取決めはない。

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 2,431 千円 | 2. 2,734 千円 | 3. 2,747 千円 |
| 4. 3,241 千円 | 5. 3,544 千円 | 6. 3,557 千円 |



短答ポイントアップ答練 第3回

問題12 次の〔資料〕に基づき、×1年度（×1年4月1日～×2年3月31日）においてリース取引に関して計上される費用の総額として最も適当なもの番号を一つ選びなさい。（8点）

〔資料〕

- 当社は次のファイナンス・リース取引を開始した。
 - リース取引開始日
×1年12月1日
 - 解約不能のリース期間
×1年12月1日から×5年11月30日まで
 - リース料
月額2,050千円（うち50千円は維持管理費用相当額）であり、×1年12月1日を初回として、毎年12月1日に向こう1年分を前払いする。
- リース契約において所有権移転条項及び割安購入選択権は付されていない。
- リース物件に関する事項は次のとおりである。
 - リース物件は特別仕様ではなく、その経済的耐用年数は5年である。
 - リース物件の見積現金購入価額は90,970千円である。
- 当社の追加借入利率は年4.0%である。
- リース資産の減価償却方法は定額法である。
- 年金現価係数は次のとおりとし、計算に当たってはこれを用いること。

| | r = 4.0% | r = 5.5% |
|-------|----------|----------|
| n = 3 | 2.775 | 2.698 |
| n = 4 | 3.630 | 3.505 |

- 計算の結果に端数が生じた場合は、千円未満を四捨五入すること。

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 8,422 千円 | 2. 8,438 千円 | 3. 8,622 千円 |
| 4. 8,638 千円 | 5. 8,798 千円 | 6. 8,958 千円 |